

理事長室から

竹屋 元裕



地震からの復旧・復興をコンサートで応援

7月28日午後4時27分に最大震度7の地震が熊本地方を襲いました。奇しくも「平成28年熊本地震」から10年目、なんという巡り合わせでしょうか。亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。学内でも地震当日21名の学生諸君が帰宅困難となり、アリーナで不安な一夜を過ごしました。幸い大学関係で重傷者はいませんでしたが、相当数の学生・教職員の方々が被災されたとの報告を受けており、大学としても出来る限りの支援を実施したいと思います。

この夏は「平成28年熊本地震」から10年目の復興を祈念して、様々な音楽イベントが企画されていました。中止となったものもありましたが、「今だからこそ!」という思いで開催されたイベントもありました。8月8日の「第9回ふるさとの宝を! (小川芳宏メモリアルファイナルコンサート)」では、川口みさき実行委員長(川口辰

哉副学長の奥様)のもと侃々諤々の議論の末、開催が決定されたと聞きました。オープニングでは、田尻大喜さん(熊本が誇る気鋭のトランペッター)による2016熊本地震復興支援曲“YELL～君と明日へと～”のソロが会場に響き渡り、来場者の胸を打ちました。翌週の8月16日には「熊本地震から10年合唱でつながる祈念コンサート」が開催され、ゲストの東京混声合唱団と地元の合唱団・合唱愛好家が一緒になって東日本大震災復興支援合唱曲「くちびるに歌を」(信長貴富 訳詞・作曲)が歌われ、復旧・復興を大いに力づけてくれました。

いずれも演奏者の熱意が伝わり感動的なコンサートとなり、私もそうでしたが、多くの来場者が会場の募金に応じていました。今後もいくつかの復興祈念コンサートが企画されており、音楽の力で復旧・復興支援への気運が一層高まることを期待したいと思います。



相次いで開催された2つの復興祈念コンサートのポスター



「熊本地震から10年合唱でつながる祈念コンサート」での「くちびるに歌を」全体合唱

就勝、へ心引き締め8講座

リハ4年次生「ガイダンス」

リハビリテーション学科4年次生を対象とした就勝ガイダンスを7月24日(金)に開催しました。当日は90%を超える学生が参加し、履歴書・小論文・面接対策講座など、全8講座を受講しました。

就職活動マナー講座では、学生同士でスーツ姿を確認し合い、身だしなみへの意識を高めました。連日の猛暑ということもあり、「クールビズで参加したい」という本音もポロリ。

しかし、その後発生した令和8年熊本地震により、施設見学の日程変更を余儀なくされるなど、多くの学生に影響が及んでいます。このような状況の中でも、志望する進路の実現に向けて、SG担任、就職委員および就職・実習支援課が連携し、学生一人ひとりの就職活動をサポートしてまいります。(就職・実習支援課)



4年次生の90%超が受講したリハビリテーション学科の就勝ガイダンス

本学と海外の計5大学が毎年持ち回りで開催している国際シンポジウムが7月、フィリピンで開催されました。シンポジウムに参加した青木学教授(医学検査学科)に報告してもらいました。

＜報告者＞
医学検査学科
青木 学教授

比で開催 海外の4大学と連携 本学4教員も研究発表

7月3日(金)、フィリピンのCentro Escolar Universityにて「11th Allied Health Science symposium (AHSS)」(フィリピンのFar Eastern Universityとの共催)が開催され、本学からはリハビリテーション学科理学療法学専攻の岩下佳弘准教授と野中裕樹助教、看護学科の澤崎美香講師、医学検査学科の青木の4名が参加しました。

AHSSは、Centro Escolar University、Far Eastern University(共にフィリピン)、Khon Kaen University(タイ)、Daegu Health College(韓国)、および本学の5大学が持ち回りで毎年開催しているシンポジウムです。去年は本学がホストを務めました。

今回は、午前中にKeynote AddressとPlenary Session、午後からは各学科に分かれてのConcurrent Research Presentationが行われました。Plenary Sessionでは「Initiatives and Innovations in Health Education in the Era of Artificial Intelligence」のテーマで、岩下先生が発表されました。また、Concurrent

Research Presentationでは、野中先生、澤崎先生、青木がそれぞれの研究分野について発表を行いました。Plenary Session/Presentationでは活発な議論が繰り広げられ、とても盛り上がりしました。

次回はKhon Kaen Universityの主催で来年7月にバンコクでの開催が予定されています。



Centro Escolar UniversityのFaculty memberらと記念撮影する本学教員。左3人目から青木教授、野中助教、岩下准教授、澤崎講師

銀杏アラカルト



試験管を手に血液型検査の模擬実習に臨む生徒たち

■都城西高校の生徒が来学 宮崎県立都城西高校フロンティア科2年生の14人が7月15日(水)、本学を訪れました。入試・広報課職員から本学の概要や医療職の特徴について説明を受けた後、看護学科実習室、KMバイオロジクスアリーナ、図書館などの学内施設を見学。実際のキャンパスライフや充実した教育環境を体感しました。模擬授業は、理学療法学専攻と医学検査学科の2グループに分かれて実施。このうち、医学検査学科グループは「輸血検査について～血液型検査について学ぼう～」をテーマに、白衣を着用しながら血液型検査の実験に挑戦しました。プログラムの締めくくりには、同校フロンティア科出身で現在医学検査学科4年次生の学生が登壇し、大学での学びや学生生活について紹介。活発な質疑応答が行われました。(入試・広報課)

■九州学院高・ルーテル学院高の生徒が来学 九州学院高校の生徒28人とルーテル学院高校の生徒21人が7月21日(火)、本学を訪れました。一行はレストランで昼食をとった後、50周年記念館に移動し、入試・広報課職員から本学の概要や特徴を聞きました。引き続き、両校の卒業生が「学生生活レポート」と題して登壇し、大学での学びや学生生活について紹介しました。生徒たちは進学後の具体的なイメージを膨らませながら熱心に耳を傾けていました。その後の学内施設見学では、看護学科実習室とリハビリテーション学科実習室を巡り、実習設備や学びの環境について理解を深めました。(入試・広報課)



50周年記念館で、入試・広報課職員の説明に耳を傾ける生徒たち

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻の大塚裕一教授と宮本恵美准教授が『失語症リハビリテーション実践ガイド』シリーズを上梓しました。教材編5冊と総論編の計6冊を6～7月にかけて次々と出版。大塚教授、宮本准教授の長年にわたる言語聴覚士としての研究、実践をまとめたもので、治療現場で「失語症検査の結果を的確に読み解き、訓練に生かす」ことを目指しています。

教材編（A4判108～144頁）は、「名詞理解訓練課題」「名詞表出訓練課題」など、分冊ごとに言語情報処理モデルと関連付けた実際の訓練法などを解説。シリーズ最後に発刊した総論編（B5判、168頁）では、言語情報処理モデルに関する基本的な用語解説に始まり、様々な症状に対する訓練やその手順などを、イラストや図解をふんだんに使って紹介しています。監修に当たった種村氏（びわこリハビリテーション専門職大学教授）は大塚教授の恩師にあたります。また、教材編に名を連ねる清家佳歩さんは本学の2023年度卒業生で、現在、武蔵ヶ丘病院で言語聴覚士として活躍中です。今回は教材の核となる用語の収集と整理を担当しました。

シリーズは、大塚教授が「定年時期に合わせ、これまでの歩みの集大成としたい」として企画。当初、4～5年がかりで計画していましたが、出版を急ぎたい出版社から「あせらせられて」（大

塚教授）、予定より大幅に早い定年の1年半前に世に出すことができたということです。

シリーズの評判は上々で、想定していた臨床の現場からだけでなく、大学の授業用教科書としても問い合わせが来ているということです。大塚教授は「これまでの取り組みが世の中に受け入れられうれしい。患者に還元してもらい効果につながれば、新たなものが見えてくることになるはずだ」と話していました。（NL編集部）

※教材編は3520～4180円、総論編は5280円（いずれも税込み）



「適格認定書」手に いざ臨地実習 装い新たに助産別科生



認定書を受け取り笑顔の別科生たち。前列は、右から牛島講師、平川就職・実習支援課長、河瀬事務局長、竹屋理事長・学長、原田助産別科長、池田助産別科同窓会会長、浅尾准教授

臨地実習に臨む助産別科の学生に対する「臨地実習適格認定書」の授与式が7月24日（金）、1502講義室Mであり、19人が認定書を受け取りました。

今年度から実習着のカラーがピンクからパープルへ新され、学生たちは新しい装いで臨地実習への決意を新たにしました。

原田なをみ助産別科長の開式の言葉に続き、竹屋元裕理事長・学長が学生一人ひとりに認定書を授与。その後、「一人ひとりにとって実り多い実習となるよう頑張してほしい」と激励の言葉を述べました。

学生誓詞では、別科生たちが作成した動画が流され、誓いの言葉とともに、入学から今日に至るまでの充実感あふれる講義や仲間たちと乗り越えてきた日々が映し出されました。

別科生たちは、8月から3カ月間の臨地実習に入っています。（入試・広報課）

インフォメーション

行事予定（8月24日～9月7日）

8/30（日）	チャレンジ 熊保大!推薦選抜対策講座
9/4（金）	修士学位論文中間発表会

※「NEWSLETTER335号」は9月7日（月）に配信します。